東洋大學新聞
発行所
東洋大学新聞学会
東京都文京区白山5
電話(946)5231内線335
直　通(946)0867
振替口座　東京71741
一般購読料・年500円

サークル誌・タイプ印刷
太洋社総合印刷(株)
文京区白山4-36-18
(京華学園前)
電話(九四六)四五五九

国籍書換運動の無条件の支持

地区実の質的拡大で

入管闘争は、今日、日本急進主義大衆闘争の到達点とその質を根底から問いつめつつ、極東アジア革命へと牽引せんとしている。「七・七盧溝橋三十三周年日帝のアジア再侵略阻止人民大集会」での華青闘の告発を突破口として、自らの革命綱領のその一国性と急進性が暴露されるその度合により、階級戦線から脱離する部分、そして過去の面目にしがみつく部分が鮮明となってきた。―在日被抑圧民族無条件防衛―が自らの綱領とは全く離離して飛び出してしまう現状は、しかし、10・8羽田三周年集会に対する華青闘の再度の告発により自らの立場を自らの手で明らかにせねばならない。＝①日韓及び10・8第一次羽田闘争の総括②七・七集会の総括と本集会(10・8三周年集会)の意義③地区実運動の位置付け④入管闘争への闘う姿勢と沖縄との関連⑤在日朝鮮人と未解放部落の関連。今われわれに要求されていることは、入管闘争を綱領次元の問題として明らかにすることであり、それに応えねばならない(調査室取材部)

無条件防衛の歴史的験証

沖縄闘争の本質的方向性

真の反帝国主義を闘う沖縄人民

—国政参加粉砕へ—

沖縄―中国及び北朝鮮に対抗する軍事拠点と、東南アジア人民の反帝的人民反乱に対する軍事鎮圧のための前進軍事拠点。そして南朝鮮反革命軍事植民地国家を背後からささえている。日本本土―相対的に進んだ帝国主義工業経済社会であり、南朝鮮、沖縄の機能によって保障された。

一九五〇年代以降、労働者国家群との直接的軍事対抗、植民地人

第三次アジア革命の決戦場―極東―

大学闘争―結果と展望

◇我々の具体的任務

極東反革命軍事体制解体へ向けて

ベトナム・インドシナ人民の闘いは米帝により中途挫折していった、第二次アジア革命を第三次アジア革命へと登場させていった。このベトナム・インドシナ永久革命としての発展は、被抑圧民族としての朝鮮人・中国人・沖縄民衆を、植民地人民の民族解放闘争へと動員させることにより、米―日―「韓」―「台」極東反革命軍事構造解体そのものへと自身を形成させていきつつある。第三次アジア革命そのものとして存在する被抑圧民族の闘いに合流することこそ、本土帝国主義プロレタリアートの任務である。今回の「大学闘争―結果と展望」においてわれわれの具体的任務を明確にしてゆきたい。

景星鶏人

レーニンが「文学は党とその目的に奉仕しなくてはならない」といったとき、彼は自分がいおうと思うこと以外を語ったのと反対に、ブルト

書泉　SHOSEN　294-0011代
千代田区神田神保町1-3(神田日活前)
振替口座　東京4968番
書泉　理工学書部　294-0014
理工学図書及雑誌の専門店
書泉ブックマート　294-0015代
千代田区神田神保町1-21スルガ台下角
4階　美術・家庭・思想
3階　辞典・参考書・図鑑
2階　理工学・医学・農業
1階　雑誌・文学・文庫
地階　法律・経済・社会
新雑誌1,500点をそろえております。

季刊　現代と思想
現代の思想的課題を追究し、70年代への展望を示す新雑誌
創刊号　好評発売中　¥450
特集　現代日本の思想的課題
思想統制の現代的意義　家永三郎
新しい知識人の形成　島田豊
労働基本権と市民的自由　片岡曻
基礎科学の擁護　牧二郎
日本軍国主義復活の経済的基礎　林直道
シンポジウム　思想としての教育問題　大沢勝　堀尾輝久　池上惇　他出席
平田清明氏における「国家」と「市民社会」概念の批判　田口富久治
杉原四郎・大原慧・秋間実・北田芳治・佐藤毅・細谷昂・犬丸義一・中西功・西島有厚・神山文人　他執筆
青木書店　東京神田神保町1-60

■改稿新版出来!
英和・和英　新化学用語辞典
愛媛大名誉教授　橋本吉郎著
■数々の化学語辞典を執筆している高名な著者が、20年にわたり大学生に活用されてきた本辞典を最新資料により全頁書改め改稿新版とした。最新化学語二三、五〇〇語を英→和/和→英に配列し的確な訳語/解説/化学式また特にカナ発音を記した。化学は勿論広く理学/工学/薬学を学ぶ上で最も使いやすい好評辞典/　B6判五二八頁/定価千五百円/〒90
化学ドイツ語新辞典　橋本吉郎著　化学および自然科学関係のドイツ語2万5千語　千三百円〒90
化学英語の解釈研究　橋本・谷野著　化学英文に精通する例題四七一題に適切な訳解　六百円〒70
化学ドイツ語の解釈研究　橋本・川本著　化学常用動詞ほか五三〇題　八五〇円〒70
目録贈呈
101　東京都千代田区神田神保町3-2　(264)5711
三共出版株式会社　振替東京1065

時事問題研究の基本誌
情報の整理と省力
新聞月報
創刊21年　毎月10日発行　250円(〒18)
前月の各紙からの主要記事のラウンド・アップ。いつも政治家、評論・著述家、教育者、その他知識人の秘書となります。10月号より誌面刷新。学生の就職、リポート、卒論に伝統的の強さ。別に在外読者の要望にこたえて、本誌を軽量化した薄手版(230円〒別)があります。
鋭い問題意識と力強い主張
新聞論潮
毎月20日発行　200円(〒12)
内容　1. 中央紙、ブロック紙の月間社説一覧表
2. 月間社説の流れ(ダイジェスト)
3. 主要社説約80篇収録
新聞界の最高頭脳がつづる社説が世論形成に及ぼす力はきわめて大きい。知識人の各位におすすめします。
〒100東京都千代田区内幸町1-3-1　新聞月報社　振替東京44832　TEL591-1681

機械工学のすべてを結集した一大体系/コロナ社創立50周年記念出版
機械工学大系(全60巻)
編集委員長　東大名誉教授・工博　兼重寛九郎
①熱流体の数学　慶大名誉教授　工博・鬼頭史城著　▼A5/予¥一、二〇〇
情報工学講座
①情報回路論(1)　阪大尾崎弘・樹下行三・白川功共著　▼A5/¥一、二〇〇
③情報理論　名大　福村晃夫著　▼A5/¥一、三〇〇
⑨情報システム論　岐阜大　大川善邦著　▼A5/¥一、五〇〇
⑬電子計算機(1)―コンピュータの実際―　日本電気　金田弘著　▼A5/¥一、二〇〇
電気機械学　中央大　猪狩武尚著　▶A5・¥1,200
新標準電気工学講座3　電子回路　電子管回路改題新版　押山・相川・辻井共著　▶A5・¥1,200
コロナ社　東京都文京区千石4　振替東京14844

十一月大衆闘争の拠点形成

経営自―組織強化

10・21へ

入管・沖縄を軸として

今秋の新入管法国会上程阻止と沖縄の国政参加粉砕に向けてのその政治的 突破口―10・21国際 反戦デーを前日に控えて、今本学経営学部自治会を先端として全学的な入管闘争と沖縄闘争の深化と定着化が押し進められんとしている。三学部で政治スト権獲得され、更なる入管・沖縄闘争に向けた深い反帝国主義の潮流の構築に向けて、徹底した入管・沖縄闘争の討議と11・15政治ストへ向けた 組織化が 即要請されている。

大学当局は不当にも19～21三日間のロックアウト攻勢でわれわれの分断を画そうとしているが、全ての諸君は自覚せよ、歴史の加速度的前進を、世界を〝赤〟の連帯をもって獲得せよ！ 工場に、学園に総占拠・総武装・総反乱の赤旗を立て、ブルジョア共を奈落の底へ落し込め！ 10・21入管、沖縄の突破口を大胆に切拓せよ！（編集局取材部）

経営学部学生自治会（石野田委員長）は、今秋入管法国会再上程阻止、沖縄国政参加粉砕に向けた闘いを大衆的に展開すべく10・21政治スト貫徹に向けて各クラスにおいてクラス討論を行なっている。

経営学部学生自治会は、今年四月、行動委員会を結成し、四―六月闘争の中で入管闘争、沖縄闘争を大衆的に押し進めるという観点から闘ってきた。しかし、七・七集会は、入管闘争における日本階級闘争の決定的な一国性と、立ち遅れを暴露していった。こういう状況の中で、経営学部学生自治会・経営学部行動委員会は、入管闘争を再度問い直し、闘い抜くという観点から、北部の地において地区運動を強化すべく、闘い抜いてきた。

経営学部学生自治会は、現在的に、入管体制粉砕闘争を主要な任務と位置づける中から、在日朝鮮人民の歴史と日本人民の歴史的な犯罪性というものを大衆的にすべく、クラス討論を展開している。経営学部学生自治会の今秋大衆闘争の方針は次のとおり。

ベトナム、インドシナ武装解放闘争は、永久革命として全アジア植民地解放革命への水路を切り開き、この力のもとへの「労働者国家」中国、北部朝鮮を客観的に動員することによってアジアの革命と反革命の力関係を歴史的に逆転せしめた。この第三次アジア革命の成長、発展に抗しアジア反革命軍事支配体制を維持、防衛すべく極東帝国主義支配体制を単一のブロックとして米日両帝国主義は再編強化せんとしている。

このような極東における状勢の中から、国内において今秋再上程される「新」入管法があり、諸々の入管体制がある。

「韓国」における来年五月の朴三選阻止に向けた南部朝鮮人民の闘いが、ベトナム、インドシナ革命とともに、高揚せんとするわけで、日本帝国主義者は、本土においてそれに向けて、入管法再上程七十一年一月の在日朝鮮人に対する永住権申請期限切れ等々、弾圧攻勢を開始している。

帝国主義によって一切の自由を奪われ、その生命さえも、脅やかされ、虐殺されつづけてきた朝鮮人民、中国人民、沖縄人民の百年の歴史こそが日本人民が生きている現在である。

こうした帝国主義本土人民の歴史的に抑圧民族としての形成過程の歴史を根底からとらえ返さなければならない。被抑圧民族の持つ一切の感情と意識とが無条件に歴史的、客観的な根拠をもつものであるが故に、被抑圧民族の側に立って闘い、被抑圧民族の闘いに対して無条件に防衛していかなければならない。

第二次アジア革命の中途挫折により、南北に強制された歴史を見る中から、本土における在日朝鮮人民の死をかけた闘いを防衛し、在留自己決定権、自治権獲得の闘い、「韓国」籍から朝鮮籍への書き替えの闘いを支持し、防衛しぬくことが、われわれに課せられた任務である。

また、沖縄においては、戦後本土プロレタリアートがブルジョア民主主義をうけとったのに対し、沖縄人民は農地を奪われ、米軍兵と米軍基地を受け取った。

このような歴史的背景の中から現在の沖縄闘争、69年11月、日米共同声明によって日帝の沖縄統合＝72年返還をうち出し、七十年四月、国政参加法案が国会を通り、日帝はその具体的なものとして今秋11月15日の沖縄国政参加選挙を強行しようとしている。このような日米帝の攻撃に対し、沖縄現地における闘いは、七〇年一月の全軍労の第一波48時間、第二波120時間におよぶストライキと発展してきた。東洋石油基地反対同盟の急進的な闘いは、屋良政府打倒、米軍基地撤去、そして国政参加反対の闘いとして展開している。われわれはこのような沖縄人民の自己の決定とその権利を全面的に支持し、防衛する闘いを本土において闘い抜かなければならない。

経営学部学生自治会は、このような沖縄闘争と入管闘争を今秋期大衆闘争として闘い抜いている。

なお、経営学部学生自治会は、十六日、自治委員総会を開き、10・21政治ストライキをこのような方針を持って可決した。

三日間のスト突入

―日帝のアジア再侵略阻止に向け―

〈法自〉

法学部学生自治会（牛尾委員長）は十七日、一六〇番教室で学生大会を開き、十八日から二十一日までの三日間の政治ストライキを四百余人（含む委任状）で確立した。

大会は入管、沖縄闘争の現状分析と具体的任務を、ち密に討議しつつ議事の運営がなされた。

大、決議案は十八日の佐藤首相の訪米を、「佐藤・ニクソン会談で日米共同声明を具体化せんとしていることを指摘し、「七二年沖縄返還」とひきかえにまず①日帝の韓国・台湾防衛＝軍事侵略の肩代り、②沖縄＝本土のアジア侵略基地化③沖縄の永久核基地化と自衛隊の侵略軍隊化を遂行せんとする反人民的攻撃として存在していることが掲げられた。

アジア再侵略に死活をかける日帝にとって、沖縄がその生命線の片軸なら、入管法・入管体制の攻撃は他方の軸として位置しており、入管法再上程と、法的地位協定に伴う「永住権申請」の期限切れを前にして、政府・法務省はあらためて在日朝鮮人民の朴＝日帝への屈服と服従を強要しようとしている。それに対し、在日朝鮮人は各地で「永住権申請」を拒否し「朝鮮籍」への書きかえを要求している。日本帝国主義はこれを弾圧し「韓国」籍を強要している。以上の情勢分析のもとに、その任務としてこうした在日朝鮮人の国籍書きかえ運動を支持し、政府・法務省の、いかなる弾圧も粉砕せねばならないのであり、こうした情勢の中で日帝のアジア再侵略を阻止するために、入管沖縄闘争への総力をあげた全人民の決起にある。

以上の事が確認され、大会は最後に、三日間の政治スト権を確立するとともに、十・二一、入管、沖縄総力戦として闘い抜くことが満場の拍手で確認された。

社会学部もスト権確立

社会学部学生自治会（三田委員長）は、十六日、午後一時から大講堂で第二〇回秋期定例総会を開き、前期活動報告及び総括、後期活動方針を一括承認した。

総会において、次のことを確認した。九―十月の入管、基地、反軍沖縄闘争の全国地域からの闘い、そして、教育における拓大の闘いをはじめとする全国教育闘争と、本学における教育カンゴクを突破していく闘い総体を問題にし、そのことをアジア太平洋圏安保の公然たる発動をもって反革命階級同盟の盟主としての登場を突撃的に展開しつつある日本帝国主義ブルジョア政府打倒の闘いとして10・21対政府中央闘争として闘い抜いていく。

これをもって社会学部学生自治会は、10・17～21までのストライキ権を確立した。

ルポ

くたばれ白山祭

六者（文化団体連合、体育団体連合、学部代表者会議、工学部部任委員会、短大自治会、二部中央自治会）協議会は、八日、文連本部で、既に7日に三者（文連、体連、学代）協議会によって決定した白山祭開催を、さらに具体化すべく協議会をもった。白山祭準備委員会、実行委員会の設置を決定し、さらに20日に、日程、統一テーマ等の具体案を、全学に明示するため、再度六者協議会を開くことに決定した。

白山祭実行に当り協議会の討論の中にうつ積する問題は多くある。

個別学園闘争として、川越移転、四項目要求といった学内闘争を、全学を挙げて闘ってきた。これは学園行事として、学校側からおしつけられてきた白山祭を、そのスケジュール化した〝ドンチャン騒ぎ〟の犯罪性を見抜く中から、中止へとおいやってきた。我々は、学園闘争を、階級闘争の一環として捉えてきた。そうした新左翼運動の高揚に、学校側はその反動性を暴露し、川越闘争、特に四項目闘争においては、その一項目も、解決することなく、逆にパネル板検問ロック・アウト体制をもって強権的国家権力を背景に、我々を圧迫しきたのである。

六者協は、白山祭の準備開闘は現行の午後十時ロック・アウト施行し、検問時間延長要求を、学校側に申し出ること、また白山祭の成功の中から、ロック・アウト体制解除の方向を展望する決議が行なわれた。ロック・アウト体制とは、新左翼運動に対する反動派からの猛烈な圧迫である。それを六者協がこうした対案によって打破しようと決議したのは、現状の諸問題に対して、鮮明に捉え切っていない意識の不十分性をものがたるものではないのか。

また、それに関連して文連から提起された事項で―、白山祭の中で、洋大闘争を総括し、それを洋大闘争の一分節と位置付け、新たな洋大闘争を展望しようとの発言である。あの〝ドンチャン騒ぎ〟の中から、洋大闘争をいかなる形で総括するというのであろう。闘争総括といった洋大全学的問題は学生大会の実施と、徹底した討論の中から総括されるべき問題であろう。検問ロック・アウト、そして新たな学館建設といった多くの問題を、除外したまま実施へとふみきることは極力さけねばならないだろう。

10・8

入管・沖縄闘争の突破口

羽田闘争三周年集会開かる

10・8集会実行委員会（全国全共闘・全国反戦・市民団体）は、八日午後六時から日比谷野外音楽堂で一万人を結集し、羽田闘争三周年、入管法国会再上程阻止、入管体制粉砕、叛軍闘争勝利、破防法粉砕労学市民総決起集会を開いた。

本集会において、67年10・8羽田闘争が客観的にベトナム革命によって動員されたものであり、この闘いを今日の段階から把え、入管体制粉砕闘争、沖縄闘争を軸として、新たな日本階級闘争の発展と飛躍を計ることを全体で確認した。

第一部の各戦線からの連帯のアピールの後、第二部では入管闘争をはじめとする今秋の闘いの方向について提起が行なわれた。

この中で東京入管闘は、「本集会を主催している実行委員会の中心が全国反戦、全国全共闘、東京入管闘の三者で構成されておりながら、東京入管闘が入管闘争の課題にこたえきれない 実情にふまえ、実行委からおりたうえ、厳しく自己を点検しつつ、入管闘争の中心軸を担うべく闘っていく」という趣旨の提起を行なった。

この東京入管闘の提起を受け、各政治組織の代表が、入管闘争を中心とする今秋の闘いについての方針と決意の表明を行なった。

なお、華青闘は、東京入管闘に67年10・8羽田闘争以前の総括、70年10・8集会をいかに取り組むのか、入管闘争における地区実の位置づけ、入管と沖縄の関係、在日朝鮮人と未解放部落の関連の五点の問題を提起してこの集会とは別個の集会を開催した。

10・21防衛庁闘争に向けて

共産同政治集会

共産主義者同盟は十六日午後五時より板橋公会堂において、共産同政治集会を開いた。

集会では、10・21防衛庁闘争を展開することが確認され、さらに第三次ブンド建設に向けてが語られた。また、混迷する全共闘、反戦を革命的に解体し、恒常的武装闘争を行う中から、混迷を突破、反帝統一戦線の再編を図ることが確認された。

また、60年代日本階級闘争が67年10・8闘争以降、学生を中心としたプロレタリア国際主義の闘いとして存在するが、それは日帝の動向、国内の帝国主義的再編の暴露以外ではないと見ている。

過渡的世界における70年代権力闘争を闘うに際し、米帝と共通の利害を持ち、東南アジアに対する反革命的に登場する日帝の軍事外交路線に対し、今までの大衆的武装カンパニア闘争でなく、帝国主義軍隊解体、革命の正規軍建設、ソヴィエト型組織の確立に向けて闘い抜くことを確認している。

しかしながら、「帝国主義軍隊解体、革命の正規軍建設、ソヴィエト型組織の確立」においては革命を展望することはできない。なぜなら、戦後世界支配体制は米帝の圧倒的軍事、経済力のもとでの一元的支配のもとに確立していったのであり、今、ヴェトナム、インドシナ永久革命として発展する「帝国主義―植民地」という世界構造の中からの植民地人民の解放闘争によって帝国主義世界支配体制の一週が崩壊しはじめている。

即ち、植民地人民の解放闘争のみが最も革命的である。それは、実的闘いに合流、合体することのできないカンパニア急進主義そのものとしてある。

現在、米帝、日帝を中心とする帝国主義世界支配の最深部に存在し続けてきたが故であり、我々は被抑圧民族として存在する植民地人民の闘いを防衛、発展させ、それに合流する以外革命を展望することはできない。日本急進主義的大衆闘争は帝国主義本土におけるあげ底されたところの最左翼として存在していたにすぎず、「平和と繁栄」のその枠内での闘争でしかなかった。かかる後期帝国主義時代における民族・植民地問題の歴史的かつ根底的認識は共産同にあってはまるで不在あるいは欠落していると言わざるをえない。

今、必要とされているのは革命そのものとしての植民地人民の闘いに本土帝国主義プロレタリアートがいかに自身の歴史的にして非革命的な存在を解体し、かつ合流していくのかであり、極東における米帝、日帝を中心とした極東反革命軍事構造である「米―日―韓―台」反革命体制をいかに突破していくかなのである。そして、その意味において入管、叛軍、沖縄を文字どおり質的に単一、不可分の闘いとして大衆を組織していくことにある。

「帝国主義軍隊解体、革命の正規軍建設」をいかに叫んでも、世界革命とはほど遠いところでの空語にすぎない。本質的に最も革命的な被抑圧民族の闘いを防衛することなくして語られるこれら共産同の叛軍闘争、入管闘争は、沖縄帝国主義の弱い環として存在する極東における反革命戦略にいかに対決しうる戦略、綱領を持ちうるかが問題なのである。我々は現に歴史的に形成された支配構造における革命と反革命の激突の中に革命の綱領を唯一見てとることが可能なのであり、その綱領において組織、運動論が 成立する のである。共産同においては帝国主義軍隊とは無縁な所に「赤軍」が建設されるのであり、革命の軍隊の綱領が不在なのである。革命の正規軍建設など日本の「平和と民主主義」の枠内の急進主義運動の延長線上での戦術の 肥大化に すぎない。我々は「武装蜂起を準備するのではなく、武装蜂起に向けて準備する（トロッキー）」のであり赤軍建設は決して日本労働者運動の現段階（極度の民族主義、国民平和主義的それ）より無縁かつ独自につくられるものではない。世界権力構造をブルジョアジーとプロレタリアートと一般的にしかとらえきれず、入管闘争、沖縄闘争の意味を本質的、歴史的に理解することができない共産同は一国主義的、平和主義的党派の一典型であると観じざるをえない。共産同諸君の成すべき 総括の核 心点は「赤軍」派発生の組織体質そのもの、これの歴史的、客観的解明であろう。

反帝国際主義の極の形成の向けて

極東解放革命派が統一行動

国際主義労働者委員会、学生インター、国際主義高校戦線は、十月十四日午後六時から清水谷公園に約二百人を結集し、今秋の闘争の課題としての入管、沖縄闘争勝利に向けた労学総決起集会を開催し、入管に関しては現在全国で始まった朝鮮籍への書き換え支持を沖縄に関しては国政参加粉砕への闘いを確認した。

集会は各労働者、学生、高校生の発言により進められ十・一四対法務省、総理府闘争を闘い抜き十・二一入管・沖縄拠点政治ストへの足掛かりと する事が確 認された。

集会では南北統一朝鮮革命に対する日本帝国主義の在日朝鮮人民の解体を意図する入管法再上程阻止に対し在日被抑圧民族無条件防衛、抑圧民族である日本労働者人民自身が無条件に彼等の日本帝国主義に対する自決、自治権の獲得の為に闘い抜かなければならないと提起され、そのためには具体的な闘いを各地区実行委を軸に強化しなければ ならないと 提起された。劉彩品さんの即時無条件在留権を勝ち取る闘い、特に「韓国」籍から朝鮮籍への書き換えの運動を無条件に支持し、日本帝国主義のこれへの敵対を粉砕する闘いを各地区において闘いぬかねばならない事が確認された。

また、被抑圧植民地人民の植民地革命を無条件に支持、防衛する闘いの質が、入管闘争の本質的任務であると提起された。また、入管・沖縄闘争において本土急進的諸派が、帝国主義のその枠内においてのみ闘争する方向性を持っているとし、その様な中間主義的反帝国主義は直接的には沖縄反軍事植民地闘争の現段階に対する無知として九・一〇闘争において集中的に示されたと発言した。そして以上のような中間主義派の傾向が沖縄反軍事植民地闘争の現段階に対する無知の中で在日被抑圧民族無条件防衛のスローガンをかかげたとしても本物でありうるはずがないということを提起した。

国政参加選挙は日本帝国主義がこの八月の危機を回避し他方この形式的一体化ルートの確立によって「合法的」に屋良を救済し反軍事植民地闘争の解体を進めんとするものである。この国政参加選挙に対して 沖縄の最も 先進的部分は、屋良政府打倒―日帝の統合化粉砕のもとで国政参加粉砕のスローガンで選挙ボイコット戦術を復帰協公労協の中にもちこみ新たに沖縄労農自治政府へと向う流れを形成しつつある。本土沖縄闘争の任務は、この沖縄において第三次アジア革命と合流せんとする闘いを支持し、この屋良政府打倒し日帝の統合化粉砕の闘いを無条件で防衛しこの闘いに連帯して本土において国政参加粉砕の闘いを圧倒的に実現しなければならないと確認された。

そしてさらに現在の入管、沖縄闘争の局面は第二次アジア革命の貴重な成果たる労働者国家中国、北部朝鮮を米日帝国主義、朴将一派から日本労働者人民自身が防衛し共に闘い抜く事であると確認された。

こうした政治内容を今後十、十一月闘争の基本方針として全体的に確認した後、入管、沖縄の新突破口として法務省、総理府に向けてデモンストレーションを展開していった。なお今回の集会は十、十一月闘争に向けて党的指導の下に学生戦線と労働戦線の[illegible]を実現したもの[illegible]

ベトナム記録映画上映さる

ベトナム[illegible]短大自治会、[illegible]学部自治会（[illegible]後一時から、大[illegible]百人を集めて、ベ[illegible]「ディエンビエン[illegible]た。

ベトナム留学生[illegible]おいて、言論自由[illegible]剝奪などの差別[illegible]強いられている。[illegible]国費留学生（日本[illegible]受けている）で[illegible]ず、日本政府は、[illegible]動を行なった者に[illegible]支給を停止する[illegible]を強いている。[illegible]困難な状況を、[illegible]人民の戦いを[illegible]に訴えた。この[illegible]ナム、インドシ[illegible]をみつめ、われわ[illegible]たちは意識する[illegible]かわらず、抑圧[illegible]う、彼らの提起[illegible]としてとらえ返[illegible]い。

沖縄統合粉砕に向け

佐藤訪米抗議闘争

全国全共闘（山本議長）、全国反戦（鈴木世話人）は、十八日午前八時から太田区入新井公園に、約二千人の学生、労働者を結集し佐藤訪米抗議闘争に向けた総決起集会を開いた。今回の訪米は昨年十一月、日米共同声明の具体化として、日帝の極東反革命構造の総仕上げを意図する「佐藤・ニクソン会談」と世界諸帝国相互間の確認のためであり断固としてこれに反対する事を全体的に確認した。

集会は各党派の抗議表明がよって進められた。七二年沖縄返還によって、50年代合衆国帝国主義のその軍事支配によって形成された極東帝国主義構造がベトナム・インドシナ植民地革命の前進とその北上により、極東構造の機能が低下、政治的に敗北、困惑の泥沼に没入し、自らの軍事力によって極東反革命構造を保障しえなくなったが故に、近代工業国家日本の極東への登場を強制するものとしての七二年、沖縄返還によって、その極東帝国主義構造の機能を補完し、アジアの再度の革命を防衛せんとするものである。こうした近代工業国家日本の極東への躍陸は再度のアジア革命からの、反共障壁国家「韓国」、「台湾」の防衛と反革命軍事基地沖縄の国政参加による全面的支配をしてゆく中で極東反革命軍事構造を強化してゆくものである。

集会の後、入新井公園から、羽田空港に向けてデモンストレーションを行なった。

暴力事件発生

―工学部―

工学部教授会は、十月四日発生した応援団内部の暴力事件に対し、調査会を設け、加害者側の学生に反省をうながすことを決定した。

この暴行事件は、応援団内部で退部を申し出た一年生に対して上級生による特訓に名を借りたいわゆるシゴキ事件で応援団内部の権力関係（上級生と下級生）を暴露したものである。

当局公示は、しかし問題の本質をすりかえている。暴力が学園内で公然と行使された、そのような状態において、「暴力」を「暴力」と扱わず、応援団内部の問題と規定し、声明文一枚で事件を隠蔽するものであろう。

こうした学内情勢に対する大学当局の対処は、体育会の暴力を黙認する中において、文部省中教審の目ざす大学の反動化をおし進めようとしている。当局の「民主的」に名を借りた疑瞞的かつ一方的な声明による「正常化」、―また、体育会運動部の大学権力機構を基盤から維持している本質を認識し、民主的学生の闘争を歴史的に圧殺してきた犯罪性を暴露する必要がある。

現在、工学部においては、十一月に予定されている工学祭の準備にいそがしいが、当工学祭は、十一月政府当局―暴力、法下程―の問題とは全く無縁の所で実施されんとしており、この暴力事件と関係して、この工学祭の意義を各自問い直さねばならないだろう。

不断 優柔

○…「チョッパリ」とは朝鮮語で、「豚足」の意味である。朝鮮では中国の纏足に似た風習があり、日本が植民地化した朝鮮に征服者として乗り込んできた時、朝鮮人には日本人の下駄ばき風習つまり、足の指を「豚の足」のようにわける風習を野蛮なものとして眼にうつったのである。彼らは抑圧者＝征服者の日本人に対する蔑称として「チョッパリ」といったのである。

○…戦後、この植民地用語は朝鮮人の間で消えなかった、日本人は思っていた。しかし現在もその言葉は生きていた、というより、より強い意をこめて彼らは用いていた。それは戦後、日本が一貫して朝鮮人にとってまさにいわれのない日本人の内にある差別と、日本政府からの入管法に表われる抑圧の政策として、抑圧者、被抑圧者の関係を厳然として保ちつづけているからで日本人が朝鮮人に対して抑圧者の姿勢を解体せぬ限り「チョッパリ[illegible]

編集後記

10・20、21[illegible]に対し、もっ[illegible]の方向を提起[illegible]のでしたが、[illegible]ルの中で[illegible]それが完成さ[illegible]しています。[illegible]で、会員の不[illegible]り、入会者を[illegible]

学芸案内

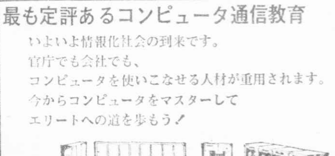
▼現代イギリ[illegible]期日9月9～[illegible]～PM5時（月[illegible]東京国立近代美[illegible]

▼朝鮮民主主[illegible]展覧会 期間5月15～[illegible]朝鮮商工会館（[illegible]TEL（843[illegible]

※10月5日[illegible]時20分に本学[illegible]バスが出ます。

最も定評あるコンピュータ通信教育

いよいよ情報化社会の到来です。
官庁でも会社でも、
コンピュータを使いこなせる人材が重用されます。
今からコンピュータをマスターして
エリートへの道を歩もう！



初級プログラミング講座

◎基礎からプログラム作成まで責任指導／入学随時

受講案内はおのD15係あてにご請求ください。

CLIC 電子計算機通信学院

原稿募集のお知らせ

東洋大学新聞では原稿を募集しております。論文・映評・劇評・寫真など何でもけっこうです。なお、紙面に掲載の場合は薄謝をさしあげます。

東洋大学新聞学会

情報化社会にアピールするシリーズ!!

初等情報処理講座

林知己夫監修 全6巻 B6／各￥650

1 情報処理の数学　牧野都治
2 統計の知識　牧野都治
3 情報検索入門　長沢雅男
4 予測の知識　仮谷太一
5 乱数の知識　脇本和昌
6 プログラミングの知識　石井 博

■太字は既刊／好評発売

数学ライブラリー／新刊
17 線形代数入門　茂木 勇　A5／￥750
18 統計数学入門　本間鶴千代　A5／￥850

計測工学(I)　高沢 新　A5／￥2000

東京神田小川町3　森北出版　電話東京292-2601

工学基礎としての
電気回路理論　早大教授 工学博士 石塚喜雄著　A5／400頁 ￥1,300

一般電気工学　工学博士 日大講師 福田金次郎 長沢秀郎 共著　A5／194頁 ￥630

自動設計法（現代自動制御双書3）　工学博士 研野和人著　A5 198頁 ￥1,000

詳解 電気回路例題演習　既刊2冊
(1) 直流回路と交流理論　￥1,000
(2) 回路網論と多相交流　￥780
山口勝也・佐藤和雅・井上文弘・西田允之 共著

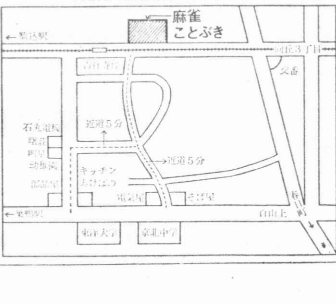
改訂 ケーブル通信工学　酒井 洋著　A5 ￥1,400

改訂 マトリクスとその応用（応用数学講座1）　A5 276頁 ￥1,000　西垣久実・洲之内治男共著

〒112 東京都文京区千石4-46-10 振替 東京14844 電話(941)3131　コロナ社

麻雀

サービス本位の雀荘―学園より徒歩5分

学生割引　1時間　￥40―
サービスタイム　〃　￥30―
(AM10:00 PM5:00)
冷暖房完備

クラブことぶき　吉祥寺町停際
TEL (946) 8272